

水稲新品種「ナツコガネ」について

岩下友記・新屋明・松元幸男・山川恵久

(鹿児島県農業試験場)

I wASHItA, T., SHiNYA, A., MATSUMOTO, S., and YAMAGAWA, Y.,
A New Variety of Paddy Rice Plant "Natsukogane"

水稲「西南34号」は昭和44年から鹿児島県の奨励品種に採用され通称名を「ナツコガネ」として普及に移されることになったので育成経過と特性概要について述べ参考に供する。なお本品種の育成に直接従事した職員は朝隈純隆ほか2名と筆者などである。

来歴ならびに育成経過

ナツコガネは昭和35年鹿児島県農業試験場で「西南8号」(ワタラセ)を母「メグミワセ」を父として人工交配を行ない、その後も同場で集団育種法と系統育種法を適用して育成されたものである。昭和40年度以降「西南34号」の系統名で関係府県に配布して地方的適否をたしかめ、昭和44年2月(F₁₀)水稲農林207号に登録され通称名を「ナツコガネ」と命名された。

特性概要

1. 形態的特性

稈長はコシヒカリよりも約8cm短い稈長はほとんど差がない。穂数はやや少いが草状は良好で止葉は直立し成熟期の熟色は鮮れいである。その他の形態的特性は第1表のとおりである。

2. 生態的特性

出穂、成熟期はコシヒカリよりも約5日早い早生種である。はいもちは強、ほいもちはコシヒカリと同程度かやや強し、倒伏性は強で穂発芽性は難である。収量は早熟のわりに多収でコシヒカリにまさり多肥栽培の場合その差が一層顕著である。

3. 適地および奨励品種採用県

ナツコガネは早生・強稈・多収であるので鹿児島県をはじめとするコシヒカリ・越路早生の栽培されている西南暖地の早期栽培地帯に適するものと思われる。昭和44年度より鹿児島県で奨励品種に採用さ

れ、普及見込面積は4000haである。

第1表 一般特性

形質	品種名		
	ナツコガネ	ナツコガネ	
熟期別	早生	早生	
程の細太	中～やや太	中	
程の剛柔	やや剛	中	
出穂期(月日)	6, 29	7, 4	
成熟期(月日)	7, 30	8, 4	
程長(cm)	76	84	
穂長(cm)	18.7	18.3	
穂数(株当本)	17.4	19.7	
芸の有無長短	無	無	
稈先色	白	白	
粒着疎密	中	中	
脱粒性	難	難	
穂発芽性	難	難	
倒伏難易	難	易	
耐病性	はいもち	強	弱
	ほいもち	やや弱	弱
	もんがれ病	中	中
	しまはがれ病	中～やや弱	中～やや弱
玄米	a当玄米重(kg)	46.6	42.4
	千粒重(g)	19.0	19.0
	腹白多少	微	微
米	心白多少	微	微
	品質	上下	上下

4. 栽培上の注意

早熟だから西南暖地では苗代日数に注意し、また多肥栽培に適し少肥では生育量が不足してその能力を十分に發揮することができないので注意を要する。いもち病耐病性はコシヒカリよりも強いが、くびいもちの常発地帯では栽培をひかえることなどである。

5. 命名の由来

西南暖地の早期栽培において夏に収穫し、みのりゆたかで熟色が鮮れいであることによる。